

芝浦製作所東京工場労働争議ニ関スル件
 芝浦全従業員協議會
 芝浦全従業員協議會本部

増大のみを計るは正しく好戦的態度と云ふ可く
 断乎として吾々の許すべからざる事である
 これを以つてそれを考へるに資本家は労働組合
 を潰殺せんとするものと断定し得る。
 この事は嘗て隨一の財閥三井に擁せられる芝
 浦製作所に最も濃厚に現れて来たのである。會
 社は産業の合理化に名をかりて東洋一の膨大な
 る工場を鶴見に新設し、精巧なる機械力と最高
 級の設備とを以つて、吾々労働者と酷使し、以
 つて従業員を半減をたくらんでゐる。この期に
 際し、吾が芝浦全従業員協議會は、創立日以後
 にも不拘ず、よく全大衆の要求を敏速に反映せ
 しめ彼等三井王國の資本家芝浦製作所に對し再
 三再四解雇反對外數項を囑願した。しかるに彼
 等は、この吾々の最も正しき、生きんがための
 汝等の自己防衛は凡て無力である事を知れ。

右聲明す

一九三二二月

芝浦全従業員協議會

芝浦全従業員協議會
 芝浦全従業員協議會本部

労務第六二。第

昭和六年二月廿三日

警視總監丸山鶴吉

内務大臣安達謙藏殿
 社會局長官殿
 各廳府縣長官殿 (ハ大雁存)

6. 2. 27
 2/72

芝浦製作所東京工場労働争議ニ関スル件

(第六報)

芝浦全従業員協議會
 十九日六百八十名
 廿日七百二十五名
 廿一日七百七十五名
 廿二日七百七十五名
 廿三日七百七十五名
 廿四日七百七十五名
 廿五日七百七十五名
 廿六日七百七十五名
 廿七日七百七十五名
 廿八日七百七十五名
 廿九日七百七十五名
 三十日七百七十五名

芝浦製作所東京工場労働争議ニ関スル件
 芝浦全従業員協議會
 芝浦全従業員協議會本部

標記筆録其後、至過左記、通記